

京都の世界遺産

嵯峨乃やのかわら版では、世界遺産である京都をご紹介します。

京都の文化世界遺産シリーズ その14



醍醐寺 (だいごじ)

874年(貞観16)、空海の孫弟子にあたる理源大師・聖宝が、醍醐山上に小堂宇を建立、准胝観音、如意輪観音の両観音像を安置した事に始まります。その後、山深い醍醐山頂上一帯を中心に修験者達の霊場として発展、さらに醍醐・朱雀・村上の三帝による信仰を受け、伽藍も整う事で醍醐寺の基礎は確立して行きました。907年(延喜7)には、醍醐天皇の勅願寺となり薬師堂が建立、五大堂も落成するに至って「上醍醐」の伽藍が完成。醍醐山麓の広大な平地には、926年(延長4)の釈迦堂、951年(天曆5)の五重塔が完成し「下醍醐」の大伽藍が発展しました。

その後、応仁の乱等相次ぐ戦火で下醍醐の堂宇は荒廃、五重塔のみが天曆建立時の姿を今に残しています。

豊臣秀吉による「醍醐の花見」を契機に、1598年(慶長3)現在の金堂を秀吉が紀州湯浅の満願寺から移築する等、豊臣家、徳川家からの援助によって伽藍の復興、寺門の整備がされ、今日の醍醐寺の姿が整いました。

2008年(平成20)8月24日の落雷による火災で、醍醐寺東側の山上にある「准胝観音堂」がほぼ全焼してしまいました。

醍醐山上一帯の「上醍醐」と、山麓の「下醍醐」、壮麗な庭「三宝院」とを合わせた広大な境内地を誇り、特に醍醐の桜として有名で、豊臣秀吉もここで花見をしたといわれています。



GETALS(ゲタル)とは、下駄とサンダルを合わせた造語です。日本の伝統として

の下駄と斬新な鼻緒を融合させたまったく新しい下駄を開発しました。このGETALSは、意匠登録、商標登録をしています。足の指を刺激することにより冷え性の緩和、五本指に開放することで脚の筋肉の刺激や運動につながります。健康にいい下駄です。

